

## 入選

### 小さな親切

福岡県 椎田中学校

一年 富永 愛美

今は、高齢者の割合が増えています。私が小学校 4 年生のときに、下校中に杖をついたおばあちゃんが出て、そのうしろからゆっくり進んでくる車がありました。それを見て私は、とっさに車に乗っている人に合図して少し止まってもらい、おばあちゃんに声をかけて、

「うしろから、車が来ています。白線がある方が安全ですよ。」とおばあちゃんに声をかけました。

おばあちゃんは、

「ありがとう。全然気づかなかったよ。」と私に言ってくれました。家の方向が同じだったので、途中でいろいろな話しながら帰りました。おばあちゃんのお家の人が、

「いっしょに帰ってくれて、ありがとう。」と私に言ってくれました。

そのとき私は、声をかけてよかったなと思いました。次の日の授業中、教頭先生が私のクラスに来て、昨日のおばあちゃんの家族から、お手紙が届いたことを知りました。名前を聞くのを忘れていたから、わざわざ手紙を届けてくれたそうです。

私は、その手紙の内容を聞いて、絶対に私のことだと確信しました。廊下と呼ばれ、教頭先生から、

「なんで助けたの？」と聞かれました。私は、

「車がゆっくり来ていて、おばあちゃんが気づいていなくて、あぶないと思ったので声をかけました。」

と言いました。教頭先生がみんなに、

「富永さんが昨日、おばあちゃんを助けたので、みんな富永さんに拍手！」

と言ったときには恥ずかしくて顔が真っ赤になりました。心の中では、

(あたりまえのことをしただけなんだけど……) と思いました。

それからは、みんなにこの話が広まって、みんなから「すごいね」と言われたり、「おばあちゃんを助けたお姉ちゃん」とも言われるようになりました。低学年からは休み時間に「遊ぼう」と言われるようになりました。

ほかにも、赤ちゃんを抱っこした人やお店に入ろうとしている人のために、とびらを開けてあげました。そのたびに、私はその人たちから「ありがとう」と言われました。あたりまえのことをしているだけで、みんながほめてくれます。

私は、見て見ぬふりはできないので、困っている人が気になってしまいます。けれど、決してありがとうと言ってほしくてしているわけではありません。でも、みんなが「ありがとう」と言ってくれます。その姿を見ると、いいことをしたのだなと思って嬉しくなります。私もとびらを開けてもらったりすると、自然と「ありがとうございます」と言っています。

また、横断歩道をわたりたいときに、車が止まってくれたときは、しゃべっても相手に聞こえないので、おじぎをし、「ありがとう」と伝えるようにしています。すると、止まってくれた車の人も、手を上げるかおじぎをして返してくれます。

私は、私にできることを変わらず続けていこうと思います。